

ストーブとの程よい距離感が大切です ～「電気」「石油」暖房器具の事故を防ぐ4+1のポイント～

長く続いた暑い季節が終わり、そろそろ暖房器具の準備を始める時期となりました。暖房器具では、毎年多くの火災事故が発生しています。安全に冬を過ごすためには、シーズン始めや日々の点検が欠かせません。

独立行政法人製品評価技術基盤機構〔NITE（ナイト）、理事長：長谷川 史彦、本所：東京都渋谷区西原〕は、暖房器具の事故を防止するために、点検方法や使用方法のポイントを紹介します。



電気ストーブに布団が接触して発火



石油ストーブに落下した洗濯物が発火

2020年から2024年までの5年間にNITE（ナイト）に通知された製品事故情報^{※1}では、主な暖房器具^{※2}の事故が596件ありました。そのうち、電気ストーブ^{※3}・ファンヒーター（以下、電気暖房器具）と石油ストーブ・ファンヒーター（以下、石油暖房器具）の事故が約8割を占めています。

“電気”暖房器具及び“石油”暖房器具について、使い始めや日々の「4つの点検ポイント」＋使用中の「1つの注意ポイント」を確認し、事故を未然に防いで安全に冬を過ごしましょう。

■ “電気” 暖房器具の4つの点検ポイント

- ☑ 電源コードや電源プラグが変形・破損していないか、コンセントがたこ足配線になっていないかを確認する。
- ☑ 本体に変色や変形等の異常がないかを確認する。
- ☑ 転倒時オフ機能（転倒時オフスイッチ等）が正常に作動するか確認する。
- ☑ 製品がリコール対象製品ではないか確認する。

■ “石油” 暖房器具の4つの点検ポイント

- ☑ ほこりがたまっていれば取り除く。
- ☑ 対震自動消火装置が正しく作動するか確認する。
- ☑ 燃料は新しい灯油を使い、昨シーズンの灯油を使用しない。
灯油とガソリンは別の場所で保管するなど、誤給油を防ぐための対策を徹底する。
- ☑ カートリッジタンクの給油口ふたが確実に閉まっていること、漏れがないかを確認する。

【+1】暖房器具使用中の注意ポイント

- ☑ 暖房器具と壁や可燃物との距離が十分に確保できているかを確認する（洗濯物は乾かさない）。

（※） 本資料中の全ての画像は再現イメージであり、実際の事故とは関係ありません。

（※1） 消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故を含みます。

（※2） 石油ストーブ・石油ファンヒーター、電気ストーブ・電気ファンヒーター、ガスストーブ・ガスファンヒーター、オイルヒーター、電気カーペット、電気こたつ

（※3） 電気ストーブにはハロゲンヒーター、パネルヒーターを含みます。

1. 事故の発生状況

NITE が受け付けた製品事故情報のうち、2020 年から 2024 年までの 5 年間に発生した主な暖房器具の製品事故 596 件について、事故発生状況を以下に示します。

1-1. 年別の事故発生件数

NITE が受け付けた主な暖房器具の製品事故情報について、年別の事故発生件数を図 1 に示します。毎年約 8 割以上が火災の製品事故となっており、毎年 100 件前後発生しています。

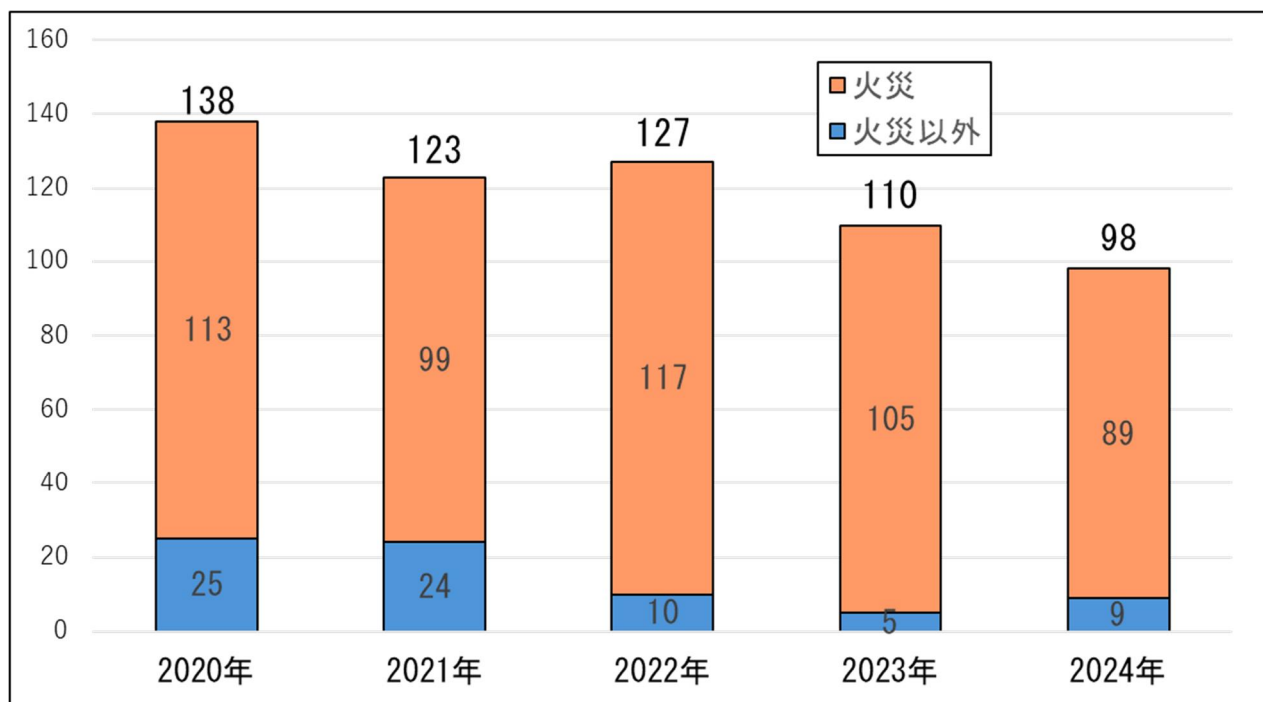


図 1 : 年別の事故発生件数

1-2. 月別の事故発生件数

主な暖房器具の過去 5 年間の事故発生月別の事故発生件数を図 2 に示します。11 月頃から事故発生件数が大きく増加して 12 月がピークとなり、4 月にかけて徐々に収束していきます。

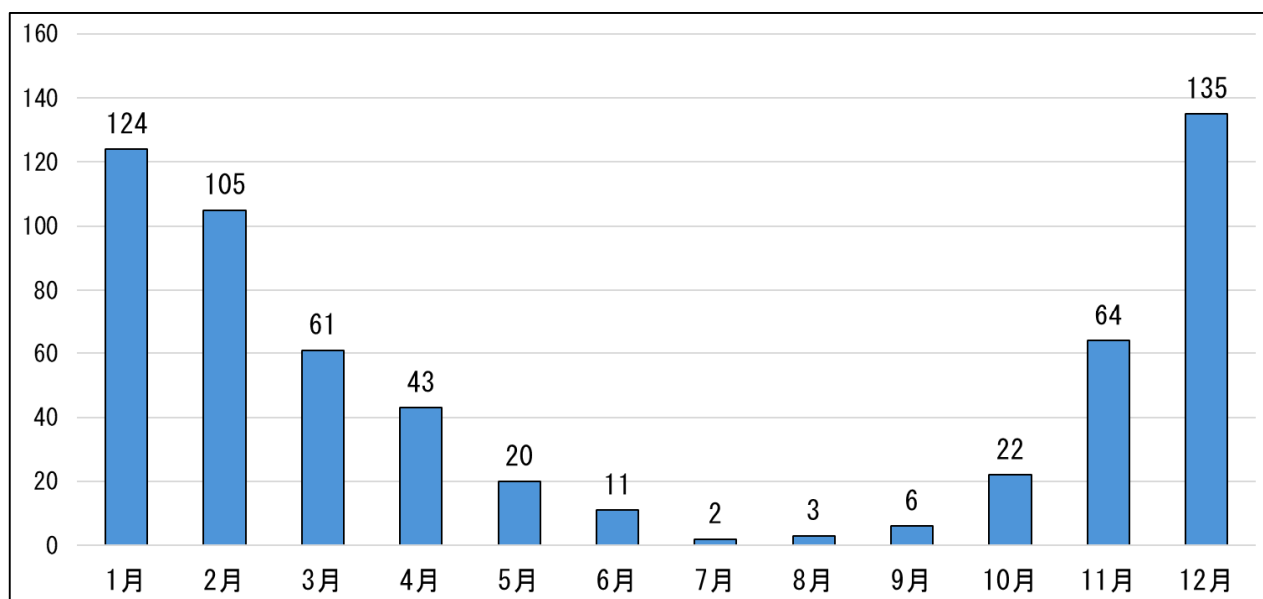


図 2 : 月別の事故発生件数

1-3. 製品別の事故発生件数

主な暖房器具の過去 5 年間の製品別の事故発生件数を図 3 に示します。「石油暖房器具」及び「電気暖房器具」の事故発生件数の割合が毎年高くなっています。

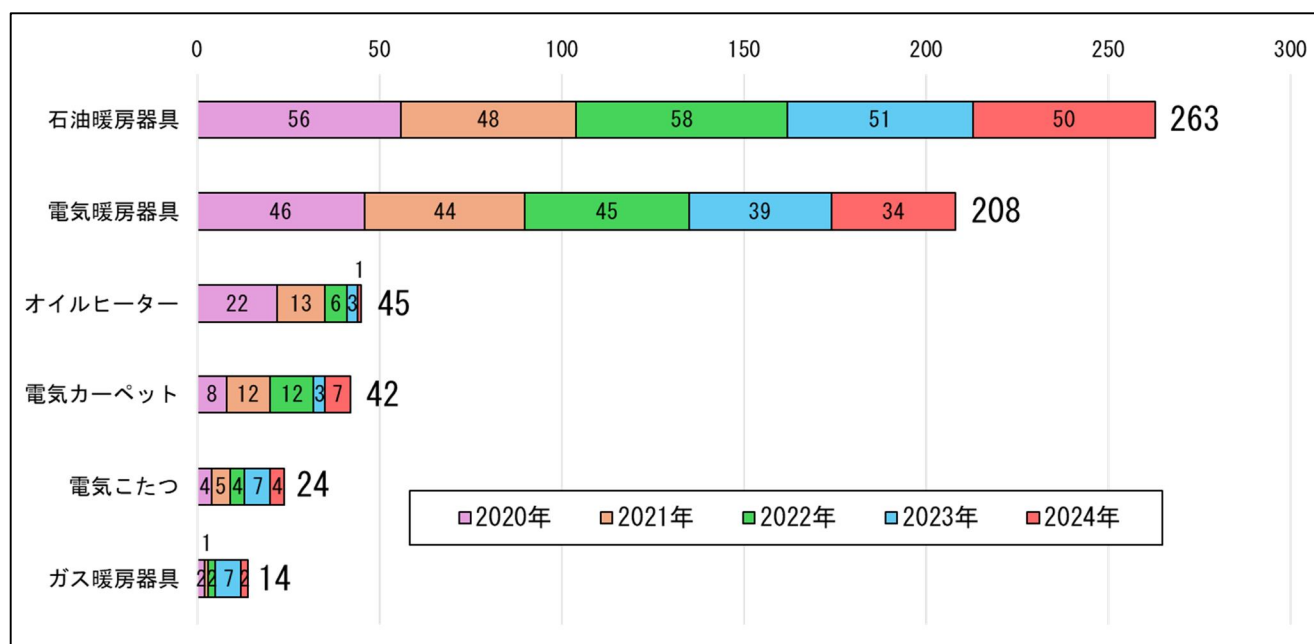


図 3 : 製品別の事故発生件数

1-4. 電気暖房器具の事故状況

1-4-1. 事故の被害状況

電気暖房器具の過去 5 年間の製品事故 208 件における被害状況別の事故件数を表 1 に示します。火災事故や周囲への拡大被害が多く発生しています。

表 1 被害状況別の事故件数※5 () は被害者数。

被害状況		2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年	総計
人的被害	死亡	4 (4)	2 (2)	2 (2)	3 (3)	7 (8)	18 (19)
	重傷	1 (1)	2 (2)		1 (1)	1 (2)	5 (6)
	軽傷		3 (3)	3 (5)	(2)	1 (21)	7 (31)
物的被害	拡大被害※4	29	23	27	24	15	118
	製品破損	12	14	13	10	6	55
不明					1	4	5
総計		46 (5)	44 (7)	45 (7)	39 (6)	34 (31)	208 (56)
うち火災件数		42	32	39	35	28	176

(※4) 製品本体のみの被害（製品破損）にとどまらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすこと。

(※5) 物的被害（製品破損または拡大被害）があった場合でも人的被害のあったものは、人的被害に区分している。

また、人的被害（死亡・重傷・軽傷）が複数同時に発生している場合は、最も重篤な分類で事故件数をカウントし、重複カウントはしていない。

1-4-2. 事故の事象別ワースト

原因の特定ができた事故情報^{※6}における事故の事象別ワーストを表 2 に示します。製品に問題のある事故で内部配線での不具合が最多となっています。次に、リコール対象製品による事故や電源コードが屈曲で断線したことによる事故が多く発生しています。

表 2 事故の事象別ワースト

事故事象	死亡	重傷	軽傷	拡大被害	製品破損	総計
内部配線の異常発熱（接続部、断線箇所）				19	10	29
リコール対象製品の事故（リコールが実施されていたが未対応の製品による事故）		1		8	15	24
電源コードの断線による異常発熱				12	8	20
ヒーターに可燃物が接触して（又は放射熱で）出火	1		3	7		11
電子部品の異常発熱				3	4	7
転倒時オフスイッチの異常発熱、作動不良				6		6
電気回路基板の異常発熱				5	1	6

（※6）事故原因の特定までには至っていないが、その事象が原因である可能性が高い事故も含まれます。

1-5. 石油暖房器具の事故状況

1-5-1. 事故の被害状況

石油暖房器具の過去 5 年間の製品事故 263 件における被害状況別の事故件数を表 3 に示します。火災事故の他、死亡事故等の人的被害が多くなっています。

表 3 被害状況別の事故件数^{※7} () は被害者数。

被害状況		2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年	総計
人的被害	死亡	6 (6)	9 (12)	12 (13)	11 (13)	7 (7)	45 (51)
	重傷	1 (1)	2 (2)	4 (4)	3 (3)	2 (3)	12 (13)
	軽傷	8 (12)	8 (13)	10 (21)	5 (8)	16 (18)	47 (72)
物的被害	拡大被害 ^{※8}	37	22	28	26	14	127
	製品破損	4	7	4	5	6	26
不明					1	5	6
総計		56 (19)	48 (27)	58 (38)	51 (24)	50 (28)	263 (136)
うち火災件数		56	46	57	51	48	258

（※7）() は被害者数。物的被害（製品破損または拡大被害）があった場合でも人的被害のあったものは、人的被害

に区分している。また、人的被害（死亡・重傷・軽傷）が複数同時に発生している場合は、最も重篤な分類で事故件数をカウントし、重複カウントはしていない。

（※8）製品本体のみの被害（製品破損）にとどまらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすこと。

1-5-2. 事故の事象別ワースト

原因の特定ができた事故情報^{※9}における事故の事象別ワーストを表4に示します。カートリッジタンクに給油した際の灯油漏れ、洗濯物等の可燃物の接触、ガソリンの誤給油による事故が多くなっています。

表4 事故の事象別ワースト

事象事象	死亡	重傷	軽傷	拡大被害	製品破損	不明	総計
給油口ふたの閉め忘れ及び締め付け不良などにより漏れた灯油に引火	5		3	17	3	2	30
可燃物が接触して（又は放射熱で）出火	1		3	14	2		20
ガソリンの誤給油により出火			4	15			19
清掃不足による異常燃焼や堆積物への引火	1	2		8	1		12
スプレー缶が近接して破裂したり、近くで使用してガスに引火			3	2			5
灯油の拭き残しに引火			1	1	2		4

（※9）事故原因の特定までには至っていないが、その事象が原因である可能性が高い事故も含まれます。

2. 事故事例

■電気ファンヒーター（電源コードの断線）

事故発生年月 2024 年 1 月（兵庫県、70 歳代・女性、拡大被害）

【事故の内容】

電気ファンヒーターを使用中、異音がしたため確認すると、電気ファンヒーター及び周辺を焼損する火災が発生していた。

【事故の原因】

事故発生時の詳細な使用状況が不明なことから、製品起因か否かを含め、事故原因の特定には至らなかったが、電気ファンヒーターは、電源コードが本体付近で半断線し、スパークが発生して、近接する樹脂製外郭に着火したものと考えられる。

【NITE SAFE-Lite 検索キーワード例】

電気温風機 電源コード 半断線



断線した電源コードの発火

■石油ファンヒーター（給油口ふたの締め付け不良などにより漏れた灯油に引火）

事故発生年月 2022 年 3 月（埼玉県、70 歳代・男性、拡大被害）

【事故の内容】

使用中の石油ファンヒーターのカートリッジタンクから燃料が漏れて出火し、床を焼損した。

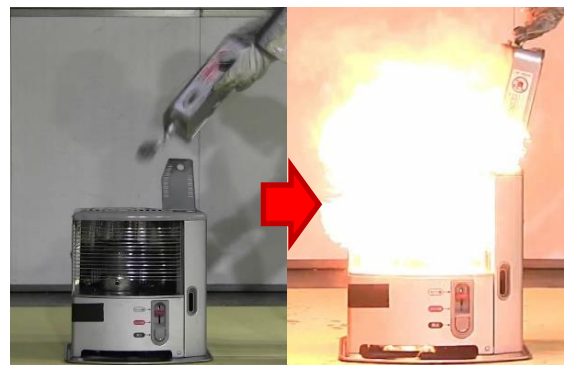
【事故の原因】

石油ファンヒーターを消火せずにカートリッジタンクに給油をしたところ、カートリッジタンクのふた（ねじ式）の締め付けが不完全であったため、本体にセットしようとした際に灯油が漏れ、ファンヒーターの火が引火して火災に至ったものと推定される。

なお、取扱説明書には、給油時の注意として、「油漏れ確認、給油時消火、居室内給油禁止」の警告表示とともに、「使用前の給油のしかた」について表記されている。

【NITE SAFE-Lite 検索キーワード例】

石油ファンヒーター 灯油 漏れ



消火後間もない高温の燃焼筒に灯油がかかり引火

■電気ストーブ（可燃物の接触）

[引用元：NITE アンケート調査から]

【事故・ヒヤリハットの内容】

いすの背もたれに上着をかけて、その後ろに電気ストーブをつけて暖をとっていたところ、いすの移動で思ったよりストーブに近づいてしまい、背もたれにかけていた上着が少し溶けてしまった。

【事故・ヒヤリハットの内容】

ベッドの近くに電気ストーブ置いていて、寝ている間に布団が接触して布団が焦げた。



電気ストーブに布団が接触して発火

■石油ストーブ（可燃物の接触）

[引用元：NITE アンケート調査から]

【事故・ヒヤリハットの内容】

石油ストーブの上の方に洗濯物をかけていて、タオルが落ちたのに気付かず、少し焦がしてしまった。

【事故・ヒヤリハットの内容】

石油ストーブの近くに置いていたぬいぐるみが倒れて、焦げそうになった。



石油ストーブに落下した洗濯物が発火

3. 電気暖房器具及び石油暖房器具の注意ポイント

「電気」暖房器具の4つの点検ポイント

☑1. 電源コードや電源プラグが変形・破損していないか、コンセントがたこ足配線になっていないかを確認する。

電気暖房器具を使用する前に、以下の点に注意して電源コードや電源プラグを確認してください。また、電気暖房器具は消費電力が大きいので、取扱説明書で延長コードの使用が禁止されていることがあります。延長コードを使用する場合は、接続した機器の消費電力の合計が延長コードの最大消費電力を超えないように注意しましょう。

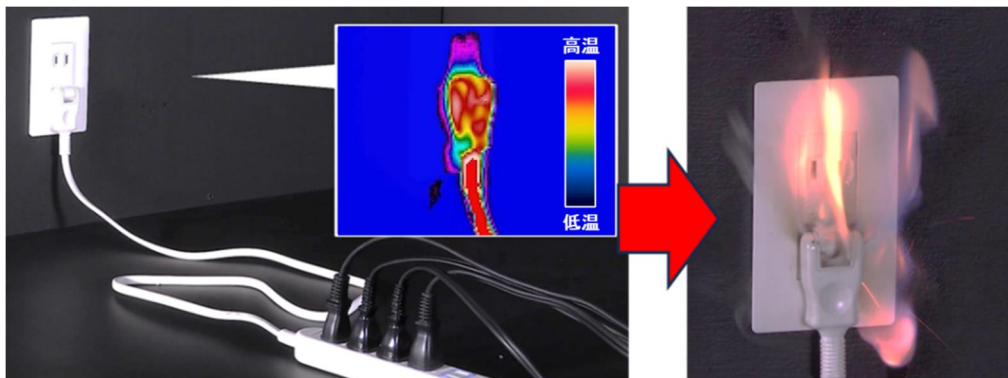
- ・ 電源コード … 被覆に破れや亀裂がないか、硬化していないか確認する（電源コードを少し曲げたりして確認する）。
特に電源コードの本体側やプラグ側の根元付近を確認する。
- ・ 電源プラグ … 変形していないか、変色していないか、溶けていないか確認する。
コンセントが変形している場合もあるため、
コンセントに差したときに、緩く抜けやすくなっているか確認する。



断線した電源コードの発火



外力で変形・破損した電源プラグの発火



消費電力の超過により発火

☑2. 本体に変色や変形等の異常がないかを確認する。

電気暖房器具では製品内部での異常発熱の事故事例が多くなっていますが、異常が発生した際、炎が出る前に動作や外観上に異常が発生する場合があります。主に、以下のような異常が認められた場合は、すぐに製品の電源スイッチを切って電源プラグを抜き、メーカーに相談してください。

- ・ 本体の一部が変色や変形していないか
- ・ 使用中バチバチという異音がないか
- ・ ヒーターの加熱、首振り動作、温風ファンが時々停止することがないか
（電源コードを動かした際に停止する場合があります）
- ・ 焦げ臭いにおいがしないか、異常に熱くなっている箇所がないか

☑3. 転倒時オフ機能（転倒時オフスイッチ等）が正常に作動するか確認する。

転倒時オフ機能※10は、地震で製品が転倒した際やぶつかって製品が倒れてしまった際に、ヒーターの加熱をとめる安全機能です。

以下の方法で作動を確認してください。（※ヒーター付近は非常に熱くなっていますので火傷には十分ご注意ください。なるべく電源スイッチを入れた直後に確認してください。）

もし、ヒーターの加熱が停止しない等の異常が認められた場合は、製品の電源スイッチを切って電源プラグを抜き、販売店やメーカーに相談してください。

- ・ヒーターが点いている状態でヒーター側を上向きに倒し、ヒーターの加熱が停止するか確認する。

- ・2017年7月以降に製造された製品の場合は、上記に加えて、ヒーター側を上向きの状態で製品底面の転倒時オフスイッチを押してもヒーターの加熱が開始されないか確認する。

（底面にスイッチがない場合は、転倒させたあとに再度電源スイッチを入れて、ヒーターの加熱が開始されないか確認する。）



転倒時オフスイッチ

（※10）一般社団法人日本電機工業会の加盟メーカーでは1996年から順次転倒時オフ機能を追加しており、それ以前の製品では転倒時オフ機能がない場合があります。また、2017年7月に電気用品安全法が改正され、それ以降に製造された製品では、転倒した状態ではヒーターが加熱されません。

☑4. 製品がリコール対象製品ではないか確認する。

電気暖房器具ではリコール対象製品での事故が多くなっています。使用している製品がリコール対象製品かどうかこまめに確認してください。

事業者、消費者庁、経済産業省及びNITEなどはホームページでリコール情報を掲載しており、お手持ちの製品がリコール対象製品かどうか確認できます。また、[2024年8月29日付けNITEプレスリリース「リコール情報の”未読・既読スルー”はNG!」](#)にてリコール情報の調べ方をまとめているので是非ご確認ください。電気暖房器具に限らず使用している製品がリコール対象になっていないか確認しましょう。

○消費者庁のリコール情報検索サイトのご紹介

「消費者庁リコール情報サイト」では、消費者向け商品のリコール情報を掲載しており、キーワードによりリコール情報を検索することができます。さらに、「リコール情報メールサービス」に登録することで、新規のリコール情報等が提供されます。



<https://www.recall.caa.go.jp/>

ONITE SAFE-Lite（ナイト セーフ・ライト）のご紹介

NITE はホームページで製品事故に特化したウェブ検索ツール「NITE SAFE-Lite（ナイト セーフ・ライト）」のサービスを行っています。製品の利用者が慣れ親しんだ名称で製品名を入力すると、その名称（製品）に関連する事故の情報やリコール情報を検索することができます。



<https://www.nite.go.jp/jiko/jikojohou/safe-lite.html>

「石油」暖房器具の4つの点検ポイント

☑1. ほこりがたまっていれば取り除く。

使用を始める前に掃除を行い、シーズン中も定期的に掃除をしてください。特に石油ストーブの置台や、燃焼部位の近くなどにほこりがたまらないようにしてください。

石油ストーブにほこりなどが堆積すると、燃焼状態が悪くなったり、炎が逆流して石油ストーブの下からあふれる「吹き返し現象」が生じてほこりに引火したりするおそれがあります。

また、石油ファンヒーターでもほこりにより空気取込口が閉塞することで異常燃焼する事故が発生しています。



（掃除不足の例）
置台にたまったほこり

☑2. 対震自動消火装置が正しく作動するか確認する。

対震自動消火装置が正しく作動することを確認してください。

確認方法としては、機器本体を前後に揺らしたときに、以下の動作が正常に行われているか確認してください。（確認方法は製品ごとに異なるため、取扱説明書に記載されている方法に従ってください。）

- ・【石油ストーブの場合】 芯を上げた状態から芯が下がりきること
- ・【石油ファンヒーターの場合】 使用状態から停止すること

☑3. 燃料は新しい灯油を使い、昨シーズンの灯油を使用しない。

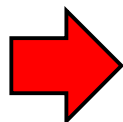
灯油とガソリンは別の場所で保管するなど、誤給油を防ぐための対策を徹底する。

石油暖房器具には“新しい灯油”を給油してください。灯油は劣化するため、昨シーズンの燃料を持ち越して使用すると異常燃焼や多量の一酸化炭素が排出されるおそれがあります。

また、誤って“ガソリンや混合燃料”を給油すると、少量の混入であっても火災のおそれがあります。灯油は灯油用ポリタンクなどの専用容器^{※11}に、ガソリンは消防法に適合した金属製のガソリン携行缶に入れて保管し、別の場所で保管する、ラベル表示で区別するなど、誤給油を防ぐための対策を徹底してください。

昨シーズンの灯油が残っていた場合は、タンクや機器本体から灯油を抜いて、灯油の処分については、灯油を購入した販売店に相談してください。

（※11）日本ポリエチレンブロー製品工業会（JBA）推奨ラベル、危険物保安技術協会（KKH）の試験確認済証、JIS マーク（JIS Z 1710 灯油用ポリエチレンかん）などが表示されているもの。



ガソリンの誤給油により爆発的に燃え上がる様子

灯油とガソリンの見分け方

指先に燃料をつけて息を吹きかける。(火気の無い所で行う)



「灯油」は濡れたまま



「ガソリン」はすぐ乾く

出典：一般社団法人日本ガス石油機器工業会 (JGKA)

☑4. カートリッジタンクの給油口ふたが確実に閉まっていること、漏れがないかを確認する。

給油後は、給油口ふたがしっかり閉まっていることを必ず確認してから本体にセットしてください。また、給油する際は、必ず先に消火してください。

灯油が機器本体にこぼれた際は、機器内部に浸入しているおそれがありますので、使用を中止し、機器の販売店やメーカーに相談してください。

なお、2011 年以降に販売された製品^{※12}では、灯油のこぼれを防止するために、給油口ふたが閉まっていることの確認がしやすくなっています。また、口金が外れても灯油がこぼれない構造のものもあります。

給油口ふたが閉まっているかの確認方法

1



ワンタッチ式

ねじ式

給油口ふたを引っ張り、
閉まっていることを確認

2

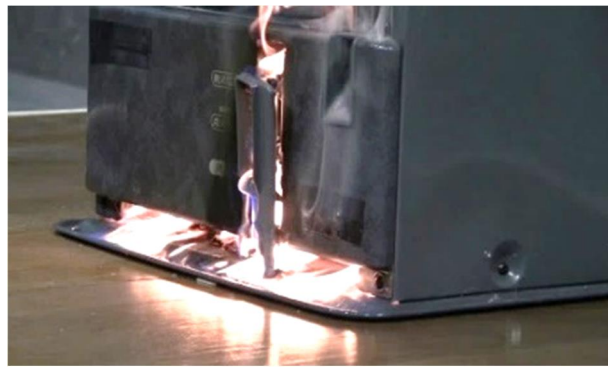


火気の無い場所で給油口ふたを下にし、
灯油の漏れがないことを確認

(※12) 石油ストーブ等の石油燃焼機器は、2009 年に消費生活用製品安全法の「特定製品」に指定され、2011 年以降に販売された製品では給油口ふたが音や目視または感触などで閉まっていることの確認ができる機能があります。



消火後間もない高温の燃焼筒に灯油がかかり引火



点火時、こぼれた灯油に引火

【+1】暖房器具使用中の注意ポイント

☑暖房器具と壁や可燃物との距離が十分に確保できているかを確認する（洗濯物は乾かさな

い）。暖房器具を使用するときは、壁や周囲の家具、衣類などから取扱説明書等で指定された距離をとりましょう。カーテンや布団など燃えやすく動くものにも注意が必要です。

暖房器具に可燃物が近接していたり接触したりしていると、放射熱^{※13}による過熱や高温部への接触によって、火災になるおそれがあります。

また、冬の時期は重ね着などで衣服の厚みが出るため、衣服の過熱や着火に気づきにくくなります。衣服と熱源との距離を常に意識して近づき過ぎないように注意してください。

(※13) 放射熱とは、高温の物体が発する赤外放射などによって離れたところに伝わる熱。

就寝時は必ず消す



電気ストーブに布団が接触して発火

近くで洗濯物を乾かさない



石油ストーブの上に洗濯物が落下

衣服や物との距離を意識する



近づきすぎて衣服が発火

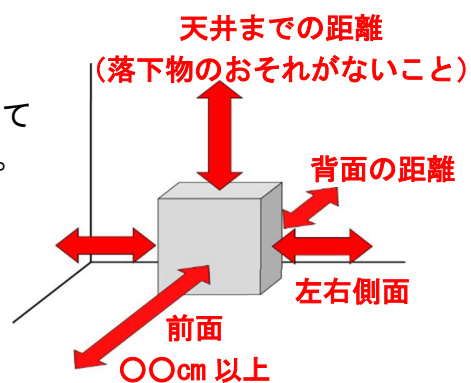
物の移動範囲にも気をつける



いすを引いた際に背もたれの上着が接触

（距離表示の記載例）

取扱説明書に周囲の物や天井、壁などとの距離について記載があります。※距離は製品によって異なります。



お問い合わせ先

独立行政法人製品評価技術基盤機構 製品安全センター 所長 川崎 裕之

担当者 製品安全広報課 宮川 七重、山崎 卓矢、清水 与也

Mail : ps@nite.go.jp

Tel : 06-6612-2066

一般消費者へのアンケート結果

以下に、NITE が 2025 年 3 月に実施した「“電気” 及び “石油” ストープでの事故・ヒヤリハットの経験について」のアンケート調査の結果を紹介します。

■対象

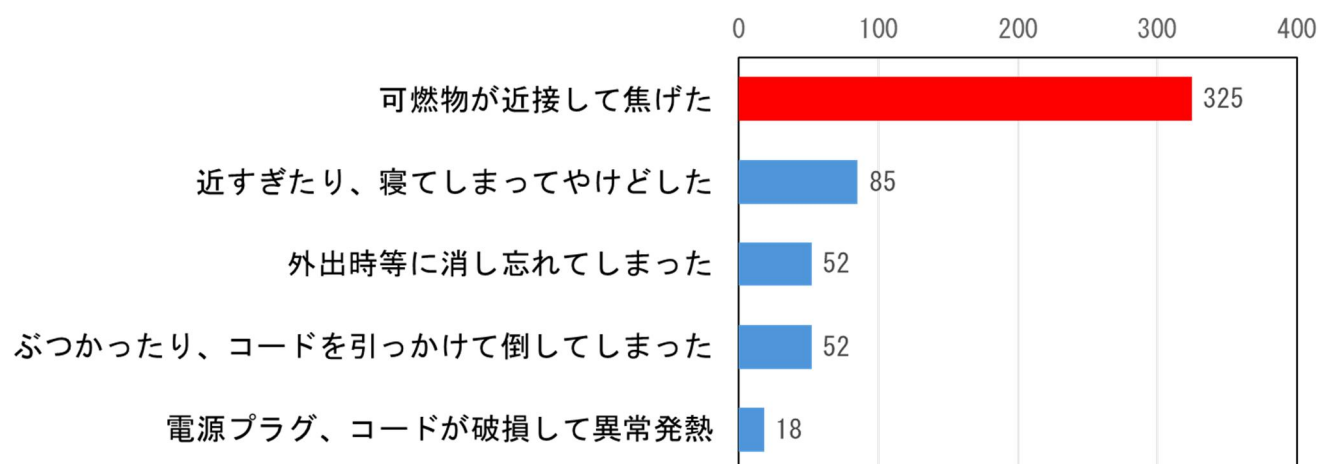
○全国：15～89 歳の男女（男性 42%、女性 58%）

○調査人数：19,297 名

○事故・ヒヤリハットの回答数：電気ストーブ…623 件、石油ストーブ…889 件

（自由記述方式によるもの、1 人 1 件の回答として集計）

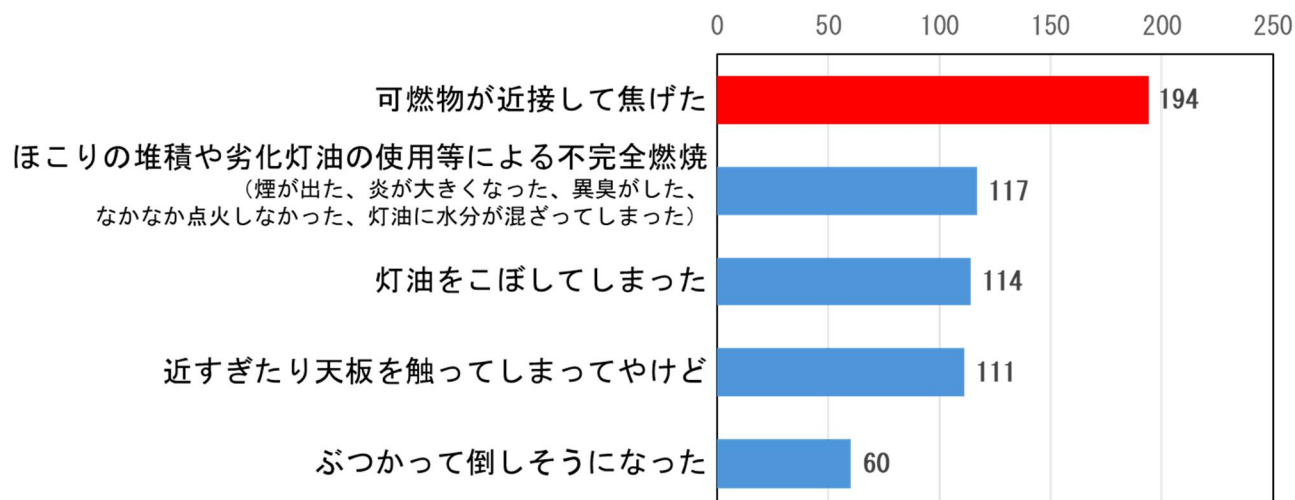
■ “電気” ストープの事故・ヒヤリハットの事例（ワースト 5）



【焦げた可燃物の例（電気ストーブ）】

衣類・タオル（干していた洗濯物も含む）…121 件、布団・毛布…76 件、着衣（ズボン、カーディガン、はんでん等）…37 件、膝掛け・ブランケット…11 件、クッション・座布団…10 件、カーテン…6 件 等

■ “石油” ストープの事故・ヒヤリハットの事例（ワースト 5）



【焦げた可燃物の例（石油ストーブ）】

衣類・タオル（干していた洗濯物も含む）…85 件、着衣（ズボン、カーディガン、はんでん等）…24 件、布団・毛布…9 件、紙類（新聞、チラシ等）…9 件、カーテン…6 件 等

【参考情報】一般消費者へのアンケート結果（東京都）

暖房器具に関して、東京都が「都内在住で 20 歳以上の男女 20,000 人」を対象に実施した、インターネットによるアンケート調査の中で、電気ストーブを使用している 520 人に対しての意識調査の結果の一部を紹介します。

電気ストーブの「使用場所」としては、居間が 64.4%と最多で、次に寝室が 36%と多くなっています。また、「電気ストーブ使用時における物との離隔距離」では、取扱説明書では正面の離隔距離は主に 1m以上と記載されているところ、1m未満での使用は 63.1%と多くの人が取扱説明書に記載されている距離より近い位置に物を置いていました。

1. 使用場所及びその広さ（電気ストーブ）

表 2.5 使用場所及びその広さ（電気ストーブ）

	あなたは電気ストーブをどこで使っていますか？また、使用している部屋の広さはどれくらいですか？それぞれについてお答えください。	全体	1	2	3	4	5	6	使用合計 上段は件数 下段は%表示
			4畳半以下	～6畳	～8畳	～10畳	それ以上	この場所では使用していない	
1 居間		520 100.0	16 3.08	110 21.15	82 15.77	66 12.69	61 11.73	185 35.6	335 64.4
2 寝室		520 100.0	19 3.7	112 21.5	43 8.3	11 2.1	2 0.4	333 64.0	187 36.0
3 台所		520 100.0	36 6.9	38 7.3	10 1.9	6 1.2	3 0.6	427 82.1	93 17.9
4 洗面所		520 100.0	64 12.3	9 1.7	0 0.0	1 0.2	2 0.4	444 85.4	76 14.6
5 浴室の脱衣所		520 100.0	94 18.1	10 1.9	1 0.2	2 0.4	2 0.4	411 79.0	109 21.0
6 その他		520 100.0	33 6.3	39 7.5	2 0.4	2 0.4	2 0.4	442 85.0	78 15.0

2. 電気ストーブ使用時における物との離隔距離

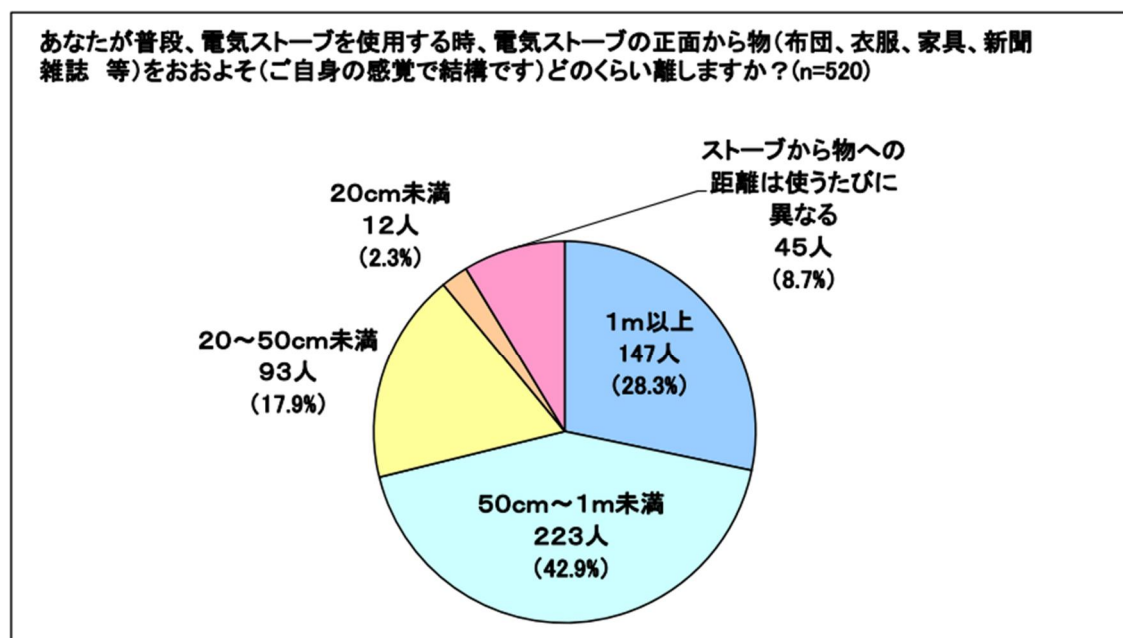


図 2.14 離隔距離（電気ストーブ）

(出典・引用：東京都生活文化局「ストーブの安全な使用に関する調査」(平成 26 年 11 月))

https://www.shouhiseikatu.metro.tokyo.lg.jp/anzen/test/documents/houkokusyo_stove.pdf

表 事故発生場所・発生年別の事故件数（左：電気暖房器具、右：石油暖房器具）

	2020	2021	2022	2023	2024	総計
東京都	6	4	6	4	8	28
神奈川県	5	5	3	6	3	22
大阪府	7	5	3	2	1	18
愛知県	4	2	2	3	1	12
兵庫県	1	5	2	1	3	12
岐阜県	2	1		4	4	11
福岡県	1	1	4	3	2	11
埼玉県	1	3		4	2	10
静岡県	2	3	1	3	1	10
北海道	3	1	4		2	10
千葉県	2	4	1		1	8
京都府		2	3			5
三重県		1	1	1	2	5
滋賀県	3			1	1	5
石川県	2	1	2			5
広島県	2		1		1	4
茨城県			1	2		3
宮城県		1	1	1		3
岡山県	1		1			2
高知県	1		1			2
山梨県				1	1	2
新潟県				1	1	2
長崎県		1	1			2
長野県	1		1			2
鳥取県		1	1			2
奈良県			2			2
愛媛県		1				1
沖縄県		1				1
岩手県		1				1
熊本県			1			1
群馬県	1					1
佐賀県				1		1
山形県			1			1
青森県			1			1
大分県	1					1
和歌山県				1		1
総計	46	44	45	39	34	208

	2020	2021	2022	2023	2024	総計
北海道	10	5	8	5	7	35
愛知県	6	5	2	5	3	21
大阪府	7	3		7	1	18
埼玉県	4	6	1	3	3	17
千葉県	3		6	4	1	14
神奈川県		3	3	1	3	10
兵庫県	1	3	2	1	3	10
東京都	1	1	1	2	4	9
福岡県	1	1	1	4	2	9
宮城県	1	3	1	1	2	8
群馬県	3		1	3	1	8
滋賀県		1	4	2	1	8
新潟県	1	3	1		3	8
岡山県	1		3	3		7
岐阜県	2	1	2	1		6
京都府	2		2	1	1	6
青森県		2	4			6
石川県	1		2	3		6
岩手県	1	2	2			5
秋田県	1		3	1		5
愛媛県	1	2			1	4
山口県		1	1	1	1	4
富山県	1	1	1	1		4
静岡県	1			1	1	3
長崎県	2				1	3
長野県					3	3
茨城県	1		1			2
広島県			2			2
高知県			1		1	2
山梨県				1	1	2
島根県	1		1			2
栃木県					2	2
福井県					2	2
福島県		1	1			2
和歌山県			1		1	2
熊本県		1				1
佐賀県	1					1
三重県		1				1
山形県	1					1
大分県		1				1
香川県	1					1
徳島県		1				1
奈良県					1	1
総計	56	48	58	51	50	263

石油ストーブの火災の消火方法・避難の目安について（神戸市消防局監修）

火災発生時の消火方法・避難の目安について

○炎が背丈を超えていたら避難する。

火元の高さに関わらず炎が背丈を超えている場合や天井まで達していた場合、初期消火は困難となりますので、炎の高さが背丈を超えていたら避難するようにしましょう。

特に高齢の方は、消火しようとして逃げ遅れることが多くなっていますので、“身の安全を第一”に、身の危険を感じたり、迷ったりした場合はひとまず避難するようにしましょう。



背丈より高い炎のため避難している（※イメージ）

○石油ストーブの火災は消火器で消火する。

石油ストーブの火災は消火器※で消火するようにしてください。また、初期消火をする前には必ず「安全確保」「避難経路の確保」を行ってから実施してください。

すぐに消火器をとりにいけるよう、事前にどこに消火器を置いているか、消火器が使いやすい場所にあるかを確認しましょう。

（※）消火器の火災種別がB火災（油火災）対応のもの。

- ・ 消火器の使用方法等については以下を参考にしてください。

神戸市-住宅用消火器

<https://www.city.kobe.lg.jp/a10878/bosai/shobo/bouka/syoutakaki/shoutakaki.html>



消火器で消火